



### 1 昔々、田検校区には「たんぼ」が広がり、 いろいろな施設があったのです。

前回の第7号では、昭和31年の「田検校区の地図」を紹介しました。当時の田検校区には、水田が広がっていたことや船着き場、木炭倉庫、発電所、染色工場、製糖工場などもあったことが記されていました。児童数は330人を超えていたことや子どもたちの平均身長も記されていました。

今の田検校区や子どもたちの体の大きさと比べることができる貴重な記録でした。

### ◇刈り取った「稲」を運ぶ田検の子どもたち

この「ヒストリア」を楽しみに読んでくださっている方が、先日一冊の本を持って来てくださいました。



### 2 『ウムイ 奄美大島・宇検村むかし いまー』

今からちょうど20年前の1993年10月1日に発行された本です。発行所は「財団法人 宇検村振興育英財団」、発行人は元山三郎（元村長）と書いてあります。「ウムイ」とは「思い」という意味の島口です。

奄美大島・宇検村への熱い「思い（ウムイ）」が、昔の写真や文章で綴られているたいへん貴重な一冊だと思いました。その中から紹介しましょう。

昭和9年の耕地整理以降、田検校区は米作りが盛んになったようです。田んぼが集まっている地域を田袋（タブクル）と呼んでいたそうです。今のどこかな？



◇ 稲刈りをする大人たち。



◇ 船に乗せて運んでいます。（文責：福田裕生）